

氷点下環境での施工が可能

タイカンコート

施工要領書

2020年9月改訂版



下 地 処 理

□ 下地適用範囲

既存塗装の有る外壁面・リシン仕上げ・吹き付けタイル／スタッコ仕上げ・単層弾性仕上げ面等。

□ 新築の下地ごしらえ

- ① 施工下地の乾燥時間は、通常コンクリートで3週間以上とし、含水率 8%以下、アルカリ度PH10 以下などを目安に、仕上げ塗材との接着が損なわれない程度の乾燥が必要です。
- ② モルタルの浮き、硬化不良、欠け(傷)、ALC版の破損、亀裂等は、予め現監督職員の指示を仰ぎ、適切な補修処置を行ってください。
- ③ 下地表面に埃、セメントノロ粉、エフロレッセンス、型枠剥離剤の残存物などが付着している場合は、ワイヤーブラシ、サンダー、シンナーなどで除去清掃してください。
- ④ 下地の不陸、目違い、突起(でっぱり、すじ、波うち)、豆板、気泡穴などがある場合は、はつり、サンディング、モルタル補修、パテ処理を行い、仕上げ模様により許容できる範囲に調整してください。
- ⑤ 下地のヘヤークラックは、刷毛またはゴムベラなどで、タイコンコートを含み塗り、クラック部分は埋め込み大きなひび割れでは、樹脂注入、Uカットシール、シール工法により補修してください。
- ⑥ モルタル仕上げの場合は、木ゴテまたは金ゴテ仕上げを行ってください。

□ 改修の下地ごしらえ

- ① 下地は十分に高圧洗浄(15MPa/㎠以上)し、表面に塵埃、付着異物、カビ、藻等が残らぬよう十分に除去し下地を乾燥させてください。
- ② 下地のひび割れ幅が 0.5 mm未満の場合、タイコンコートでひび割れ筋をまたぎ塗り 0.5kg/㎡以上を段差の無いように刷毛又はローラーで塗り付けてください。
- ③ 大きなひび割れでは、樹脂注入、Uカットシール、シール工法により補修してください。
- ④ 欠損部周辺の脆弱部分は除去しワイヤーブラシなどでケレン清掃し発錆があれば防錆処理を行ってください。また、部分的に露出している鉄筋、アンカー金物などがある場合、監督職員と協議し、健全部が露出するまでコンクリートをはつり、ワイヤーブラシ等でケレンし錆を除去し防錆剤を塗付け処理してください。
- ⑤ テストハンマー等により、剥落のおそれの有る浮きについて確認し、アンカーピン、充填工法で行ってください。
- ⑥ リシン吹付面下地では、骨材の粗面が目立たない程度にケレンするか、タイコンコートをウールローラーで捨て塗りし平滑にしてから、再度タイコンコートを工程順に施工してください。
- ⑦ シーリング材は、JIS A 5758(建築用シーリング材)NB タイプが良好です。シーリング面に仕上げ塗材を塗る場合、シーリングが硬化した後、塗り重ね適合性に合った必要な処理を行ってください。

注 意 事 項

□ 塗装前の注意

- ① 施工に入る前に試験吹きを行い、パターン、色を十分に確認してください。
- ② 施工中に、塗材が飛散しないよう、適切な養生を行ってください。
- ③ 気温-10℃以下、湿度 80%以上の施工は、使用材料の造膜性に支障をきたす恐れがあるので施工を避けてください。
高温(気温 35℃以上、躯体温度 30℃以上)、及び湿度 80%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性及び仕上げ性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。
- ④ 風速 5m/sec 以上のときは、塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすので、十分風養生対策を行うか施工を避けてください。
- ⑤ 施工時、及び乾燥硬化過程で降雨、降雪のある場合又は、予想される時は施工を避けてください。急に雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまで、天幕などで覆って流出しないようにしてください。
- ⑥ 被塗面が凍結している場合は施工出来ません。
- ⑦ 結露、霧、霜等水分の影響が施工時前後で予想される時は施工を避けてください。
- ⑧ 養生テープは施工後直ちに取り外し、時間が経ったときは必ずナイフカットして取り外してください。
- ⑨ 材料の取扱いの前には、SDSを確認してください。

タイカンコートの施工

□ 新設面 タイカンコートのローラー塗り仕上げ

工程	使用材料	希 積 (重量比%)	塗付け量 (kg/m ²)	工程時間	施工方法
1	下塗り タイカンコート シーラーK	水道水 (0~20) ※	0.12~0.15	16 以上 168 以内	中毛ローラー
2	主材下塗り タイカンコート	水道水 (0~3) ※	0.2~0.4	5 以上	中毛ローラー
3	主材上塗り タイカンコート	水道水 (0~2) ※	0.7~1.0	24 以上 (乾燥養生)	多孔質ローラー

※ 0℃以下で希釈する時は、タイカンコートうすめ液を使用ください。

□ 新設面 タイカンコートの吹き付け仕上げ

工程	使用材料	希 積 (重量比%)	塗付け量 (kg/m ²)	工程時間	施工方法
1	下塗り タイカンコート シーラーK	水道水 (0~20) ※	0.12~0.15	16 以上 168 以内	中毛ローラー 又は エアレス 0.018 インチ
2	主材下塗り タイカンコート	水道水 (0~3) ※	0.4~0.6	5 以上	リシガン口径 2~3 mm
3	主材上塗り タイカンコート	水道水 (0~2) ※	0.6~0.8	24 以上 (乾燥養生)	リシガン口径 3~5 mm

※ 0℃以下で希釈する時は、タイカンコートうすめ液をご使用ください。

□ 改修面 タイカンコートのローラー塗り仕上げ

工 程	使 用 材 料	希 釈 (重量比%)	塗付け量 (kg/m ²)	工程時間 (時間)	施工方法
1	主材下塗り タイカンコート	水道水 (0~3) ※	0.2 ~0.4	5 以上	中毛ローラー
2	主材上塗り タイカンコート	水道水 (0~2) ※	0.7 ~1.0	24 以上 (乾燥養生)	多孔質ローラー

※ 0℃以下で希釈する時は、タイカンコートうすめ液を使用ください。

□ 改修面 タイカンコートの吹き付け仕上げ

工 程	使 用 材 料	希 釈 (重量比%)	塗付け量 (kg/m ²)	工程時間 (時間)	施工方法
1	主材下塗り タイカンコート	水道水 (0~3) ※	0.4 ~0.6	5 以上	リシンガン 口径 3~5mm
2	主材上塗り タイカンコート	水道水 (0~2) ※	0.6 ~0.8	24 以上 (乾燥養生)	リシンガン 口径 3~5mm

※ 0℃以下で希釈する時は、タイカンコートうすめ液をご使用ください。

タイカンコート仕上げの施工要領

□ 施工前の注意

施工に入る前に試験塗りをを行い、ローラー模様、吹き付けパターン、色を十分に確認してください。

(1) 下塗り

- ① 新設面の場合 予め、タイカンコートシーラーK を0～20% (重量比) 水道水で希釈しハンドミキサーで均一に攪拌し、中毛ウールローラー又は、エアレスにより、塗り残し、塗り継ぎムラの生じないよう均一に所定量塗り付けてください
- ② 改修面に於いても下地が脆弱部な面や吸い込みが多いと思われる時には主材下塗りの前にタイカンコートシーラーK 処理を行ってください。

(2) ローラー仕上げ

主材下塗り

- ① 材料は上下層を攪拌機で、気泡の入らないよう均一に混合し使用してください。
- ② タイカンコートは、中毛ローラーを用いて 0.2～0.4kg/㎡均一にムラなく仕上げてください。
- ③ 塗膜は、躯体保護機能を果たせるもので十分に注意して塗り残しのないよう均一にムラなく仕上げてください。

主材上塗り

- ① 材料は上下層を攪拌機で、気泡の入らないよう均一に混合し使用してください。
- ② 下塗りをした乾燥塗膜の上に多孔質ローラーを用いて、タイカンコートを 0.7～1.0kg/㎡を1回目同様均一にムラなく重ね塗ります。
- ③ 仕上げ塗りを行う場合に、製造ロットが複数日付の缶を使用する場合、壁の面、目地等で見切り塗り分けてください。

(3) 吹付け塗り仕上げ

主材下塗り

- ① 材料は上下層を攪拌機で、気泡の入らないよう均一に混合して使用する。
- ② タイカンコート吹きは、リシンガン(口径 3～5mm)を用いて 0.4～0.6kg/㎡均一にムラなく塗付する。
- ③ 塗膜は、躯体保護機能を果たせるもので十分に注意して塗り残しのないよう均一にムラなく仕上げる。

主材上塗り

- ① 材料は上下層を攪拌機で、気泡の入らないよう均一に混合して使用してください。
- ② 下塗りをした乾燥塗膜の上にリシンガン(口径 3～5mm)を用いて、タイカンコートを1回目同様に均一にムラなく 0.6～0.8kg/㎡重ね塗ります。
- ③ 仕上げ塗りを行う場合に、製造ロットが複数日付の缶を使用する場合、壁の面、目地等で見切り塗り分けてください。

使用材料一覧表

□ 荷姿

製品名	入目	荷姿
タイカンコート	15kg	石油缶
タイカンコートシーラーK	15kg	石油缶
タイカンコート薄め液	16ℓ	石油缶



株式会社 セブンケミカル

東京都新宿区西新宿 7-8-13 栗原ビル 3 階

TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619

e-mail kimura@seven-chemical.co.jp

e-mail kitajima@seven-chemical.co.jp